河北新報　第２朝刊
©河北新報社 2010

NIE特集

Newspaper In Education

門脇小

学校名　石巻市立門脇小学校
所在地　石巻市門脇町４の２の11
電　話　0225（95）7182
校　長　鈴木　洋子
児　童　303人

知り隊

日和山の歴史を探れ！

文武両道の神様祭る

眺望抜群 漁民海見る

鹿島御児神社の社務所で窪木さんからお話を聞く

私たち門脇小のすぐ後ろにある日和山は市内の町や太平洋を眺望でき、また桜やツツジの名所として有名です。5月には、日和山にある鹿島御児神社で御例祭が行われ、私たちも稚児行列に参加しました。私たちにも親しみのある山ですが、日和山がどのような歴史を持っているのかはよく知りません。そこで鹿島御児神社宮司の窪木兼忠さんにお話を伺いました。

「鹿島御児神社は１１００年の歴史を持ち、平安時代の書物にもその名が見られる伝統のある神社です」と言います。鹿島御児神社の御児というのは親子のことであり、タケミカヅチノミコトとカシマアマタリワケノミコトという親子の神様が祭られています。この神様は、勉強ができ、武道などスポーツもよくできるようになる神様としても有名で、たくさんの人がお参りに来ます。

この日和山について、いくつかの伝説をお聞きしました。「今からおよそ800年前、日和山には城があったのだ」と言います。源頼朝が今の岩手県の平泉で戦をして勝ちました。そこで、源頼朝はこの石巻の地を葛西清重に預けました。その清重の子孫、清経が日和山に城を築いたのだそうです。

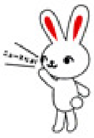
もともと日和山の名前の由来は、漁業にかかわる人々が海の状態を見る、つまり日和見するところから名付けられたのだということですが、眼下に北上川、そしてはるか太平洋を見渡すことのできるこの日和山には、伊達政宗も城を築きたかったのだという言い伝えも聞かれます。

日和山には、かつて松尾芭蕉や宮沢賢治、石川啄木、斎藤茂吉などの文人も訪れ、この地を詠んだ多くの歌碑や句碑が建っています。今でも年間約40万人から45万人もの人びとが訪れ、多くの人々に愛されています。

◇　◇

門脇小では毎年秋、「日和山ウオークラリー」という全校行事も行っています。今回取材をし、私たちも一層、日和山に対する愛着がわきました。これからも歴史のあるこの地を大切にしていきたいと思います。

文・阿部桃花、安倍千晶、石森友菜、佐藤真歩（6年）



言い隊

■ 戦争の現状を知ろう ■

最近、お店に「ユニセフ募金」などの文字をよく見かけるようになりました。募金箱の上には戦争で足がなくなった人や泣いている人の写真が張られていることが多くあります。ぼくたちの学校でも、ユニセフ募金に取り組んでいます。

しかし、写真に写っている人がどうして泣いているのか、今でも戦争をしている国があるのかについて、あまり分からないことに気付きました。大切なのは募金額ではなく、そのような国々の現状をぼくたち自身がよく知ることなのではないでしょうか。今年の総合的な学習の時間に調べ、その上でぼくたちは今、どのようなことができるのかさぐっていきたいと思います。

（6年・阿部真大）

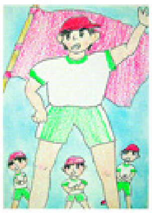
■ 紙の無駄遣いやめて ■

ぼくは、5年生の総合的な学習の時間で「紙」について調べました。すると、日本国民が1年に使う紙の量は150㌔。ちなみに世界平均は56・3㌔。世界平均と比べて、日本の消費量はおよそ90㌔も多いということが分かりました。紙が消費されているということは木が切られているということです。

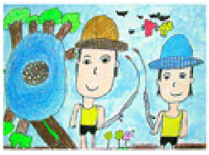
無駄遣いすると、森林は減り続けます。そして二酸化炭素が増えれば地球温暖化にもつながります。そこでぼくは無駄にコピーをしないこと、古紙をなるべく多く使うこと、牛乳パックをリサイクルするなどの工夫をしたいと思います。地球のためにみなさんもやってみてはいかがですか。

（6年・土井航太郎）

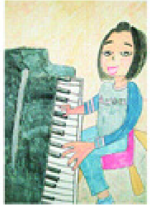
うきうきキャンバス



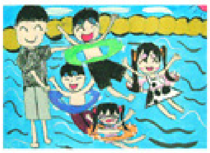
フレーフレー
3年・阿部樹弥



目玉池と２人の男の子
２年・高橋優苺



毎日のピアノの練習
6年・桑名志織



楽しかったみたきどう
４年・水口優蘭

教え隊　日和山ウオークラリー

古里学びながら散策

2008年10月に開かれた日和山ウオークラリー（昨年は雨で中止）

門脇小では秋に、全校行事「日和山ウオークラリー」を行っています。

全校児童が縦割り班ごとに分かれ、日和山を散策しながら、決められた時間の中で石巻や学校に関する問題を探し、解いていきます。私たち児童が中心になって行うこの行事は伝統もあり、門脇小の特色ある活動の一つになっています。

私たちは、この日和山ウオークラリーの伝統を守りながら、協力の大切さと思いやりの気持ちを育てていきたいと思います。

文・坂口詩織、村上琴音（6年）

編集後記

この「どきどき小学生」で調べたのは日和山についてです。身近でたくさんの疑問があり、調べるのが楽しみでした。神社の宮司さんに教えていただき、そのいわれを知ってびっくりすると同時に、日和山のすばらしさをあらためて実感しました。

新聞の編集は、最初は簡単だと思っていましたが、やればやるだけ難しくてとても大変でした。5年生の3学期には終わらなくて、春休みも学校に集まって原稿を書きました。この新聞はぼくたちの力作です。新聞作りの経験を6年生でも生かしていきたいです。

〈編集委員〉阿部真大、阿部桃花、安倍千晶、石森友菜、熊谷風杜、佐藤真歩、坂口詩織、土井航太郎、水口優海、村上琴音（6年）

題字デザイン　村上琴音（6年）

〈指導教諭〉鎌田雅子、若生孝之

毎月第２・４火曜日発行　これまでの掲載校の紙面を河北新報のホームページ（KOLNET）で見ることができます。